



Subaru

ニュース779 '22.5.10

男声合唱

5月6日

「昴」13回コンサートを聴いて ご批評 感謝！ 新しい「昴」の入団員・会員 大歓迎！



□4月23日(土)「昴13回コンサート」を、多くの参加者のもと、成功裏に終えることができました。回収させていただいた「アンケート」から、またメール等でのご便りからは、好評の感想と共に、激励を含めたメッセージもいただきました。

(合唱の舞台は、会場でのコロナ感染対策のもと、団員等の演奏直前の事前抗原検査も行い、歌手のコロナ感染予防：陰性のもと、舞台と客席との距離を確保し、マスクなしで合唱しました。)

□5月6日(金)18:00~20:30、コンサート後、初めてのレッスンを開始しました。本並先生の指揮のもと、5月22日(日)開催の「千秋昌弘 テノール喜寿コンサート」賛助出演にむけて、「いのちの歌」と「昴」の2曲を練習しました。

レッスンを早めに切り上げ、出席者全員で、「13回コンサート」についての各自の感想・意見を交換しあいました。当日の参加者は、全25名、内 団員22名 (T1:8名、T2:5名、BR:5名、BS:4名)
ピアノ伴奏は門万沙子さん。



新しい昴のメンバー・団員が加入されました。

米田 剛さん：

T1、58歳旭区在住、日用品自営業、合唱経験有：男声合唱5年、趣味：野球・ソフト
よろしくお祈いします！

なお、5月6日(金)のレッスンには、坂井威文さんが来訪されました。昂の新たな指揮者の有力な人として紹介されており、当日は、「いのちの歌」の指揮に当たられました。(正式には、5月15日(日)の運営委員会で、審査予定です。)



本並先生から紹介される坂井さん



「13回コンサート」の講評

「北部センター合唱団」の佐藤泰正さん、「合唱団おとくに指揮者、日本のうたごえ祭典 in ひろしま合唱発表会・審査講評委員」藤井幸枝さんから、心のこもった講評を寄せていただきました。ありがとうございました。

「昂」第13回コンサートを聴いて

(5月号「はもらへん」原稿より)

北部センター合唱団 バス 佐藤泰正

4月23日(土)豊中市立文化芸術センターで男声合唱団「昂」の創立20+2周年記念コンサートを聴きました。千人以上入る大ホールでしたが606人の観客も来て満場感がありました。

歌手27人で、北部センター合唱団の岩崎さん、奥村さん、光本さんも歌っていました。落ち着いた曲が多かったのが「昂」の特色である重厚で荘厳な合唱をゆったりと味わえる事が出来ました。私は眼が悪いので前の方に座っていたのでピアノの向こう人は良く見えませんでした。ピアノの右の方から低音部、左の方から高音部の良くまとまったよく揃った声がステレオのように聞こえ、ああ、これが本当の合唱だと感じました。私も3つの合唱団に加わってますがパートで音程をそろえるのも大変で、全体で声を合わせるのも大変です。「昂」に学ばなくては・・・と思いました。

第1部のテーマ「春・希望」で春のメドレーの最初の歌がビバルディの春びっくり。合唱で聞けるなんて。終わりの曲は南米の「花まつり」ウキウキします。良かったです。

第2部は「スーホーの白い馬モンゴル楽団」たった4人ですが馬頭琴のソロもありそれがどんな音色かも愉しめました。一つの口から二つの音程の歌声で唱うホーミは、いつ聴いても不思議です。一般に聴くことのないモンゴルの歌が聴けたのは良かった。私たちがこの5月に練習する「ちむぐりさ」の編曲者はピアノを担当していた治郎丸氏です。(作曲は鬼崎さん)

第3部のテーマは「いのちと愛」満蒙開拓団を歌った千秋さんには、いつもながらの感動です。この5月22日クレオ大阪東で千秋さんの喜寿コンサートがあります。勿論聴きに行きます。皆さんも行って下さい。感動間違いなしです。奥村さんのソロ「ゆらゆら春」は切なさを感じました。

低い音から高い音まで大変な曲でしたね。

昂の合唱以外に感心したことが三つあります。

一つ目はプログラムに「全曲の解説と歌詞」が入っていた事。私は 75 歳になって合唱団に入りましたので「うたごえ」でよく歌う歌の内容については、ほとんど知識がありません。「解説」は嬉しいです。「歌詞」は頭に残りません。関西合唱団のコンサートでは創作曲の歌詞しかついていません。この様に「全曲の解説と歌詞」は有難かったです。

二つ目は「マスクなし」です。当日全出演者の PCR 検査をし、全員陰性でしたのでマスクを外します」とアナウンスの後マスクをした全員が入場しました。そして皆の見ている前でマスクを外しました。これも驚き。素晴らしい合唱がはっきりと聞こえました。マスク不要の世の中に早くなって欲しい。

三つ目はロシア民謡の扱いです。悪いのはプーチンとそれに従わざるを得ないロシア軍隊です。永い年月をかけてロシアの人々の間に生まれたロシア民謡には何も悪いものはありません。ロシア民謡「白樺」(ベリョースカ)のあとに、少し憂いのあるキープ「キエフの鳥の歌」を歌った後、その楽譜を自分の顔の前に持ち上げて、引っくり返したらアッ！！全員一斉青と黄色のウクライナ国旗になったのは、すごいアイデアですね。拍手が沸き上げりましたね。すごい！！「三度目の正直」の諺があります。計画をし、ピラまで作ったのに5回もコロナのために延期。やっと今回の公演。気が付いたら2年も経っていた。これが20+2周年記念公演ですね。「昂」の皆様ご苦労さんでした。有り難うございました。オオキに。そうそう、友の会募集。女性大歓迎。男声合唱団「昂」に女性が？！次回のコンサートが楽しみです。

差出人: 松島 正行

2022年5月4日

(立川さんへ 昂コンサートの感想原稿を送ります。松島)

「13回コンサート」の講評②

男声合唱団・昂 創立 20 周年+2 周年記念 第 13 回コンサート

「いのちの春よ 生きる喜びを 歌おう！」を聴いて

合唱団おとくに指揮者 藤井幸枝

待ちに待った演奏会だった。コロナ下での練習と当日朝に全員が抗原検査を実施するという出演者の覚悟と、何度かの延期を経ても尚足を運ぶ観客の想いが共鳴していた。

久しぶりに聴く「昂」は声の圧で響かせ合うイメージから脱却していた。オープニングの「日々草」はやわらかな息づかいと絶妙のフレージングで星野富弘の世界を立体化し、「春のメドレー」に続く「白樺」は豊かな曲想と美しいディミニエンドが印象的だった。一方で「母なるヴォルガを下りて」は大河を現す声の密度と長いストロークが、「ウ・ボーイ」ではリズムを支える体からの息が欲しかった。ロシア・旧ソ連の作品の後には「キエフの鳥の歌」が急遽演奏された。「朝露」のライン太い演奏を聴き、かつての「昂」の印象が蘇ってきた。

ゲストはモンゴル出身者による「スーホの白い馬モンゴル楽団」の演奏。馬頭琴などの民族楽器を駆使し、広大な平原に流れる風と命の芽吹きを彷彿とさせた。

後半は「昂はうたう」「地雷ではなく花をください」満蒙開拓団の悲劇を歌った「方正はいくさを物語る」「方正の青い空」、この4曲は合唱団関係者の創作による。団内に創作集団がいることで等身大の「昂」、抱えるテーマが作品となる。すばらしい。しかしだからこそ作品を客観的に捉え創造する視点も必要かもしれない。布川事件で冤罪となった櫻井昇司さん作詞/曲の「ゆらゆら春」、

厳しい環境の中で紡がれたこの歌のあたたかさを力みなく伝えた。「死んだ男の残したものは」はテンポの変化に言葉を上手く組み込むことが出来ると、音楽の高揚感が増しただろう。最後は「いのちの歌」でしめくられた。

平均年齢 76 歳の合唱団が「いのちの春・生きる喜び」を真正面から歌うその潔さにふれ、帰路につく人たちは視線の先に何を見たのか。歌い手と会話を楽しむような門万沙子、あたたかく包み込む森二三、二人のピアノが音楽をふくよかに彩った。

「おまけ」 思いつくままに…

- ・「春のメドレー」は思いのほか沈んで聞こえました。女声二部版を転用されたプログラムにありましたが、男声合唱で演奏する場合は音域を少し上げて良かったかもしれません。(編曲によりますが)
- ・「日々草」「白樺」「ゆらゆら春」など詩への共感度が高かったぶり歌える曲は、演奏が安定しています。「母なるヴォルガ…」「死んだ男の…」などパートの響きが層になり、対旋律で動きながらスケールを生み出していく曲、「ウ・ヴォイ」のように軽快なリズムの中でハーモニーを作っていくことは、これからの課題でしょうか。
- ・パートの響きづくり皆さんと楽しんでやってください。「日々草」であれだけの演奏がお出来になるのですから！
- ・普段はマスクをされての練習でしょうか。本番当日だけマスクを外すと、それまでの息の使い方と変わってしまい、コントロールがしづらいかもしれませんね。演奏の中で息の足りない場面が多く見受けられました。マスクを外した開放感でつつい始めに息を使いすぎてしまったり…。難しいですね～。ご苦労お察しいたします。
- ・本文中に創作曲の事を書きました。「内容が自身に近いほど曲の中身への興味、探求が薄れてしまう」というのは私の勝手な持論です。聴衆は白紙の状態を受け止めますから、いつも客観的な視点をもって作品を深めていけたらいいなあと思っています。

おせっかいにも書かせていただきました。どうぞ戯言と聞き流してください。

2022.05.12 藤井幸枝

追伸：

本並先生

今から25年以上前、全国の発表会(当時は地域の部)で10数人の合唱団の指揮をしたとき、本並先生に「これからも続けてね」と励ましていただきました。その一言に背中をおされ、今こうしております。ありがとうございます。

立川様

お世話になっております。

演奏会の感想、改めて800字で書き直してみました。

それから800字には入らなかったことを「おまけ」として添付しています。

戯言と御聞きながしてください。藤井幸枝

昴「友の会」「日曜団員」大募集！身近な多くの方々に、声をかけていただいて、「友の会」の会員さん、月1回の「日曜団員」さんになってもらいましょう！申込用紙を手渡してください！

男声合唱団 昴 と共に歌おう

月一回の

日曜団員 大募集

毎月の第三日曜日に、昴の練習に参加して、
2023年春のコンサートで、あなたも舞台へ

★ 生きがいを見つけたい。 ★
★ 何か打ち込めるものがほしい。 ★
★ カラオケで友達に少し差をつけたい ★
★ 忙しいけど思いっきり発声したい ★

そんな あなたの願いを実現します。あこがれの男声合唱に挑戦しませんか？
合唱は初めてでも、カラオケしかやったことがなくても、大丈夫！
自分の意外な一面を発見できるかもしれません。
第3日曜日、次回コンサートで歌う曲の中から、決まった数曲を練習します

○第一回目は、5月15日(日)午後2時から始めます。
参加費用は1000円です。見学も大歓迎です。



ねむかホール
542-0012 大阪市中央区谷町7丁目1番39号
新谷町第二ビル 308号
連絡先 岡邑洋介 090-8168-9347
立川孝信 090-6058-5652

----- 切り取り線 -----

男声合唱団 昴 日曜団員 申込書

お名前 _____ 連絡先電話番号 _____

住 所 _____

メールアドレス _____ @ _____

男声合唱団 昴 友の会募集 女性大歓迎

男声合唱団「昴」は「うたごえは平和の力」を合言葉に、コンサートや地域での活動を行ない、震災の復興支援や職場で働く仲間への支援など行ってきました。
男声合唱団「昴」友の会は、この男声合唱団「昴」が更に大きく発展するよう支援して行くことを目的とし、団との交流を図りながら、会員同志の親睦や友情を深める活動を行います。

- 友の会主催で定期的にうたごえ会を開催します
- 毎月の第一日曜日14:00~16:00まで、2023年春に予定の第14回コンサートで、昴と歌う曲(2から3曲)の練習をねむかホールで始めます。お気軽にお越し下さい。
- 第一回目は、7月3日(日)に開始します。 見学も歓迎です。 参加費用は1回1000円です。

昴 友の会 会則

- 第1条 本会の名称を、男声合唱団「昴」友の会とします。
- 第2条 本会は男声合唱団「昴」のコンサートや行事を積極的に支援して行きます。
- 第3条 年会費(1月~12月)は1,000円とします。(7月以降の入会は500円とします)
- 第4条 昴の行うコンサートや「うたごえ会」の入場料を割引します。
- 第5条 総会は、会員同士や団との交流を兼ねて、年1回開催し、活動報告、会計報告・役員選任・会則の変更ほかを行います。(総会はうたごえ会を兼ねて行ないます)
- 第6条 事務所は、ねむかホールにおきます。
- 第7条 役員は以下の通りとし、総会で承認を受けるものとします。
会長 副会長 事務局長 事務局員(若干名)



ねむかホール
542-0012
大阪市中央区谷町7-1-39
新谷町第二ビル 308号

連絡先 岡邑洋介 090-8168-9347 立川孝信 090-6058-5652

----- 切り取り線 -----

男声合唱団 昴 友の会 入会申込書

お名前 _____ 連絡先電話番号 _____

住 所 _____

メールアドレス _____ @ _____

私が聞いた感想を送ります。

- 具体的な年齢の発表は不要ではないでしょうか？結果的に、同情を引いているように感じた。音楽で勝負すべきでしょう。
- 「春のメドレー」は、ピアノがきちんとリズム・テンポをとっているのに、合唱が後ろに引っ張っている感じで、いい曲ばかりなのに乗れなかった。どの曲も同じように聞こえた。
- モンゴル楽団が良かった。馬頭琴もホーミーも初めて聞いた。
- 日々草、春のメドレーと声が出ていなかった。キエフの鳥の歌あたりからしっかり聞こえてきた。
- 休憩中に、「どうしたのかな。声が届かないね。」という感想が聞こえてきたので、同じ思いの人がいたようだ。

吉岡 敬 2022.5.13
(「13コンサート」講評・感想文 次号に続く。)